



あけぼの

第38号-(1) 2014. 2. 25
宇和特別支援学校(養校舎)
図書館発行

僕の中の「金子みすゞ」

高1 F 松浦 康介



僕の中で金子みすゞの詩は、とてもいい詩です。特に、『私と小鳥と鈴と』がおすすめです。「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。」が、ぐっときます。この詩は、リズムがあります。誰にでも分かる詩です。自分のリズムで読んだり、歌ったりできる詩です。

金子みすゞの本名は、金子テルといいます。明治三十六年四月十一日生まれです。それから、たくさん詩や童謡を書きました。昭和五年三月十日にこの世を去りました。

「詩の始まりは、神様のお祈りだ。」という言葉があります。みすゞの詩や童謡を読んだ後には、心のやすらぎを感じます。「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。」の一文には、みすゞの心の祈りが込められているのです。誰にでも心があります。だから、この詩を読むと心にやさしく、あたたかく響いてくるのです。

小さいものや無名なもの、無用なものが存在する地球という星に対する祈りがあるので、すゞの詩は、いつまでも残してほしいです。

「犬の国から手紙が来て」を読んで

高2 G 松下 泉水



このお話は、犬なら誰だっていける犬の天国のお話です。犬を大切に飼ってくれた人達へ一通だけ手紙を送ることができるとのことです。そして、犬や猫などの動物たちが単なるペットから日常の中で大切な家族の一員と感じられるお話です。

私は、コミックでこのお話を知った時、まだタイトルにひかれました。そして、小説も出ている事を知り、母に買ってもらいました。私がこの本を読んで思ったことは、家族を大切にしたいと思ったことと小さい時に犬を飼っている家に遊びにいったときに、もっとお世話をしたり、大切にしたいと思いました。よかったのになというのでした。本当に犬の国があるのなら二本足で歩き、仕事をし、病気もせず元気に暮らしてほしいと願いました。

そして、今の当たり前の日常を大切にしながら、家族と仲良く、楽しく送っていきたいです。大きくなってペットを飼うようになって、犬の国から手紙を送ってもらえるような飼い主になりたいです。今を大切に：



がんばれ！盲導犬サーブ

高2F 中川 愛里

私がこの本を選んだ理由は、盲導犬のことに興味があり、もっと知りたいと思ったからです。

盲導犬になるための訓練では、二週間ほど、その犬が本当に盲導犬になれるかどうか、街に連れだされて観察しているそうです。私は初めて知りました。サーブはもちろん合格しましたが、もし、けんか好きだったり、車のクラクションや工事中の物音におびえたりする犬であれば、目の不自由な人の安全を守れないということでは不合格になるのです。私は、どんな犬が盲導犬にふさわしいのかなと思いました。健康で、おとなしく、賢い犬が盲導犬になれるそうです。盲導犬になっっている犬は、少数でなかなかないそうです。サーブは、昭和五十八年四月八日で六歳になりました。すごく賢いことが印象的でした。信号が赤のときは止まっていて、青の時はそのまま前に行くのです。きちんと判断して行動することに感心しました。

私は、盲導犬のことは、小学生のときに先生から教えてもらいました。でも、この本を読んで知らなかったことが、たくさん分かりました。これから、ニュースや新聞を見て盲導犬のことについて書いてあったら、読んで学びたいなと思いました。

まだまだ盲導犬のことについて知らないことがたくさんあると思います。これから、もっと勉強して興味深くなれるように頑張ります。



『美人の日本語』というエッセイについて

高2F 中伊 樹里

読書感想文の本を探している時、図書室で見つけたのが『美人の日本語』というエッセイでした。月日ごとの美しいことばが載っている本です。その中の心に響いたことばをいくつか紹介します。

【四月八日の「花明り」】

世阿弥が使い出したのが始まりだそうです。「花明り」に込められた意味は、真っ暗な闇でも、そこだけが明るく感じられる夢であったり、自信であったり、人々を魅了するという思いです。私は、このことばの深い意味にとっても共感し、素晴らしいと思いました。

【四月十八日の「草分け」】

初めて事を起こす人のことを示すことばです。草深い未開の地に踏み込み、新しい土地を開拓するという意味です。「一寸先は闇」ということばがありますが、開拓のためにはたくさんさんの勇気と苦労がいると思います。しかし、どんな道も初めは道が無かったのだからという思いが込められているのでしょうか。

【五月六日の「初恋薊（あざみ）】

不器用な初恋の頃：：傷つきやすい心と裏腹に、とげとげして素直に思いを伝えられない：：誰にもそんな頃があった、そんな意味が込められています。「自分に素直になれない心」という表現が過去の自分と少し重なる気がしました。

この本を読んでいくと共感できることばが多くあり、とても感動しました。人生の道がまた一つ増えたと思います。





あけぼの

第38号-(2) 2014. 2. 25
宇和特別支援学校(養校舎)
図書館発行

ところがその十字になった町かどや店の前に女たちが七八人ぐらいつ集まって橋の方を見ながら何かひそひそ談(はな)しているのです。それから橋の上にもいろいろなあかりがいっぱいなりました。
 ジョパンニはなぜかさあっと胸が冷たくなつたように思いました。そしていきなり近くの人たちへ
 「何かあつたんですか。」と叫ぶようにききました。
 「こどもが水へ落ちたんですよ。」(中略)
 ジョパンニは橋の袂(たもと)から飛ぶように下の広い河原へおりました。
 その河原の水際に沿ってたくさんのあかりがせわしくのぼったり下ったりしていました。向こう岸の暗いどても火が七つ八つうごいていました。そのまん中をもう烏瓜のあかりもない川が、わずかに音をたてて灰いろに少しずつ流れていたのでした。

宮沢賢治「銀河鉄道の夜」より



山下碧「銀河鉄道の夜」



小田寛之「へんしんじどうしゃ
えんこくん」



今城貴之「たぬきのじどうしゃ」



私は小説を読むのが苦手で、最近ではもっぱらマンガを読んでいるのですが、そんな私が、夢中になって読んだ小説が「シャーロックホームズ」です。最近では映画化もされ、今もなお根強い人気を持つ「シャーロックホームズ」。

主人公である彼を一言で表すならば「冷静沈着」。どんな窮地に追い込まれ、解決不可能と思われる難事件に直面しても決して慌てない。そんなクールな一面を持ちながら、ヴァイオリンやボクシングはプロ級の腕前という、まさに完璧な人物です。小説を読んだ当時、憧れを抱いていたのを覚えています。小説では、わずかなヒントからあらゆる可能性を考え、人間離れした推理力で難事件を解決していくシャーロックホームズの姿を、スピード感のあるストーリーで描いています。

小説を読んだことがある人の中には、私と同じように憧れた人もいるのではないのでしょうか。今回の執筆をキッカケに、もう一度シリーズを読み直してみたいと思います。まだ読んだことがない人は、ぜひ読んでみてください。

シャーロックホームズ

中村優哉



『おんなのこぼれ』

菊池さやか

私は最近、『おんなのこぼれ』という茨木のり子さんの詩集を買いました。「自分の感受性くらい」に始まり「わたしが一番きれいだったとき」「見えない配達夫」「落ちこぼれ」「聴く力」と名詩がつぎつぎに登場します。

本の最後を飾るのは、「汲む」です。ふとしたきっかけで、この「汲む」という詩を目にした私は、読み終えた時に泣いていました。

「大人になってもどぎまぎしたっていいんだな。」

「頼りない生牡蠣のような感受性 それらを鍛える必要は少しもなかったのだな。」

「すべてのいい仕事の核には震える弱いアンテナが隠されている きつと。」

この本には、初心の初々しさを忘れないこと、無理に強くあるうとする必要はなく、ありのままの自分でよい、ということを教えてもらいました。最近の手放せない一冊です。

アイ ラブ 源氏物語

井上 美苗



高校生の貴重な放課後を、図書室で「源氏物語（原書）」を読んで過ごした。今も眠れない夜には「あさきゆめみし」を手にしてしまう。なんでこんなに好きなのだろう。

心に残った本

天皇の女御が他の男性の子を生み、次の天皇となる・・・なんてストーリーが許されること自体、不思議だ。その時代、よくあったことなのか、受け入れられた背景は何だろうとか、天皇家や貴族にとって嫌な物語ではないことに興味をそそられる。平安時代とは、世の中自体が平安だったのか。

今年の俳句甲子園。決勝戦での句「紙魚這えり六条御息所の愛」

千年の時を超えて、今の若者の心をつかむとは、紫式部も思わなかったことだろう。めまぐるしく移り変わる世の中だけれど、人の心の在り方はあまり変わっていない。もっとおおらかに生きていいのかな。

足の汚れが万病の原因だった

もむだけで治る驚くべき

中国医学の特効

山家裕美子



世に健康に関する本は多い。それだけ人々の関心が高く、悩みを持っているといえるだろう。TVでも運動やダンスの番組が人気を呼び、大いに盛り上がっている昨今である。

かくいう私もあちこちが故障するにつけ、どうにかしたいと思っはいるが、怠け者でなかなか理想には程遠い。そんな中、昔、手にしていたこの本の再会である。本も処分する現在、古紙回収に出すためとめていた中の一冊。思い直しよう一度手に取り、今の私には一番必要だと考えなおして捨てるのを保留した次第である。

足の裏は第二の心臓といわれ、全ての神経が集中していると聞く。自分の都合のよい所だけを勝手に解釈してみているがなかなか興味深い。元気でなくては何もできない。少しでも仕事に役立つようマッサージに励み、老いに立ち向かうとしよう。

ドラゴン桜

宇都宮将太

私が高校三年生で受験生だった頃に出会った一冊です。二〇〇五年にはドラマ化もされ小説・漫画とも出版されています。この本では、「東大など簡単に入れる。」ということ、勉強方法・受験テクニック・子育て等に関するものが数多く紹介されています。ユニークな講師陣による一風変わった授業や勉強方法が魅力的です。当時受験生だった自分もその中で紹介されている勉強法で受験勉強に取り組んだことを覚えています。その中から一つ紹介したいと思います。「教科書には線を引くな。」というものです。大事なことは線を引いてしまいがちですが、それで勉強をしたつもりになっていく場合が多いそうです。だから、「大事な事はノートに書き写せ。」だそうです。勉強方法は人それぞれで、自分に合ったのを見つけるのが一番だと思います。しかし、勉強方法に困った際などおもしろい方法もあるので、時間があれば読んでみてください。

